

おねがい

- 資料引換券(参加資料代 2,500円)は、1日め「全体会受付」でご購入ください。2日めは各会場でも購入できます。
- 各会場とも、定員を大幅に超えた場合は、他の会場への移動をお願いすることもありますので、ご了承ください。
- 公共交通機関(JR、バス、タクシー等)のご利用をお願いします。
- 会場周辺には、飲食店が少ないため、各自で昼食の準備または弁当の事前購入申し込み(お茶付・税込み800円)をお願いします。
- 宿泊の申込については、「宿泊のご案内」をご確認のうえ、必ず折込の申込用紙で7月9日(月)までに、別紙宛先へFAXしてください。鑑文・送信票等は不要です。お電話での申込みは受け付けておりません。
- 全体会・特別講座では手話通訳を行います。個人用の要約筆記のご希望がありましたら、7月20日(金)までにご連絡ください。
- 台風など荒天時の対応は、(公社)大分県人権教育研究協議会HPでお知らせします。

HPアドレス 大分県人教 <http://kndoita.jp/>



	施設名	会場へのアクセス
全体会, 第2, 第3, 第4, 第5分科会, 特別講座	別府国際コンベンションセンター ビーコンプラザ	別府駅から徒歩19分 別府駅から車で6分、 別府駅西口から路線バスで5分(「ビーコンプラザ前」下車) 亀の井バス③⑥
第1, 第6分科会	別府市公会堂	別府駅から徒歩約8分 別府駅から車で6分

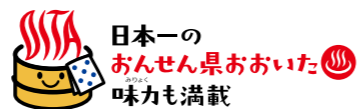
※一方通行の道路が多いため、自動車での移動には時間がかかります。

■お問い合わせ先

(公社)大分県人権教育研究協議会 事務局

〒870-0951 大分県大分市大字下郡496-38 大分県教育会館内
TEL/097-556-1012 FAX/097-556-0864

大会前日・当日のみの連絡先/090-5481-4796

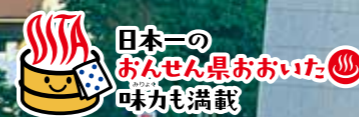


第45回 九州地区人権・同和教育 夏期講座ご案内

地元テーマ

であい つながり 広げよう

～子どもたちが安心できる居場所づくりと確かな未来のために～



とき 2018年 8月20日月 ▶ 21日火

ところ 別府国際コンベンションセンター ビーコンプラザ ほか
〒874-0828 大分県別府市山の手町12番1号
TEL 0977-26-7111
前日・当日のみの連絡先 090-5481-4796

参加資料代 2,500円

日程 8/20月 ▶

8/21火 ▶

	12:00	13:00	14:00	14:30	16:30
受付	全体会				
	開会行事	地元報告	記念講演		
	9:00	9:30	12:00	13:00	15:30
受付	〈学びと交流〉分科会		昼食	〈学びと交流〉分科会	
	特別講座Ⅰ	昼食	特別講座Ⅱ	特別講座Ⅲ	
		11:30	12:30		

主催 第45回九州地区人権・同和教育夏期講座実行委員会
第45回九州地区人権・同和教育夏期講座大分県実行委員会

後援 熊本県教育委員会/鹿児島県教育委員会/宮崎県教育委員会/長崎県教育委員会/福岡県教育委員会/佐賀県教育委員会/沖縄県教育委員会/公益社団法人全国人権教育研究協議会/全国隣保館連絡協議会九州ブロック協議会/部落解放共闘九州ブロック協議会/九州ブロックPTA協議会/大分県/大分県議会/大分県市長会/大分県町村会/大分県教育委員会/大分県市町村教育委員会連合会/大分県市町村教育協議会/部落解放同盟大分県連合会/大分県人権・同和教育連絡協議会/部落解放共闘大分県協議会/大分県教職員組合/大分県高等学校教職員組合/大分県公立高等学校教職員組合/同和問題に取り組む大分県宗教者教団連絡協議会/大分県隣保館連絡協議会/社会福祉法人大分県社会福祉協議会/一般社団法人大分県身体障害者福祉協会/社会福祉法人大分県聴覚障害者協会/社会福祉法人大分県盲人協会/大分県商工会連合会/大分県商工会議所連合会/大分県農業組合中央会/大分県小学校長会/大分県中学校長会/大分県公立学校教頭会/大分県立学校長協会/大分県立学校教頭・副校長会/大分県立学校事務長会/一般財団法人大分県私学協会/大分県国公立幼稚園・こども園会/大分県保育連合会/大分県児童養護施設協議会/大分県国公立幼稚園・こども園PTA連合会/大分県PTA連合会/大分県高等学校PTA連合会/国立大学法人大分大学/別府大学/公立大学法人大分県立芸術文化短期大学/学校法人平松学園大分短期大学/学校法人清部学園/東九州短期大学/独立行政法人高等専門学校機構大分工業高等専門学校/日本文理大学/立命館アジア太平洋大学/大分合同新聞社/NHK大分放送局/OBS大分放送/TOSテレビ大分/OAB大分朝日放送/朝日新聞大分総局/毎日新聞社/読売新聞西部本社/西日本新聞社大分総局/株式会社エフエム大分/一般財団法人大分県教育会館

(順不同)以上68予定団体

「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である。（世界人権宣言第一条）」。2度にわたる世界大戦への深い反省から、国連総会で世界人権宣言が採択されました。その後、国連はこの宣言が示す人権基準を実効あるものにするために、多くの人権諸条約を採択し、人権の国際化を進めてきました。本年は70年の節目を迎えています。

しかし今日、激増する難民問題を契機に、欧米での排外的な動きが活発化し、分断、対立、格差、排外などが激化し、先の見通せない状況にあります。日本社会でも、格差の拡大に伴い貧困の連鎖がいつそう深刻化する中、ネット上にあふれる部落差別を煽る情報やヘイトスピーチ、障害者施設襲撃殺傷事件等々、人権侵害事件が多発し、社会の在り方そのものが問われています。

そんな中、2016年には、「障害者差別解消法（4月1日施行）」「ヘイトスピーチ解消法（6月3日施行）」「部落差別解消推進法（12月16日施行）」、いわゆる「差別解消三法」が制定されました。今、その具現化が求められています。

世界人権宣言並びに日本国憲法の精神を踏まえ、基本的人権の享有をすべての人のものとしていくために、私たち一人ひとりが、主体者として、社会のあり方を決定するために必要な知識とスキル、人権を実現していくものの見方と考え方、行動力を獲得していかなければなりません。

差別の現実から深く学ぶ同和教育、人権教育の取り組みを九州のすべての地域で全面展開し、その深化に努めてまいりましょう。一人でも多くの皆さんのご参集を、大分の地でお待ちしております。

第45回九州地区人権・同和教育夏期講座実行委員長
九州地区県同教連絡協議会 会長 野口 誠也

8/20月

全体会／記念講演

ビーコンプラザ コンベンションホール

地元報告

「はじめて色覚にであう学習」……ほけん室から
～差別をつくらないために～

臼杵市立野津小学校 城 美穂 さん

これまで出会った少数色覚の子たちへの対応はよかったのだろうかと不安を感じつつ「であう本」の作成に参加した。4年生の一人は「であう本」を読み「こっちのほうが見やすくていいなあ」と言った。豊かな感性で色覚のちがいを理解した子どもから私自身もまた学んだ。

記念講演

あらためて人権教育と道德教育との関係を考える

中央大学文学部 池田 賢市 さん

今年度より「特別の教科 道德」がはじまった。道德性を評価することに抵抗感を抱く教員は多い。しかし、これは人権教育の蓄積をいかした工夫によって解決されるのか。教科としての道德の課題と同時に人権教育が失ってはならない視点とは何かを考えたい。

8/21火

特別講座

ビーコンプラザ フィルハーモニアホール

講座Ⅰ

「外国につながる生徒が力を発揮できる学校・地域・社会をつくるために」
～外国人生徒支援と子どもの権利条約～

【大分】多文化教育・福祉プロジェクト 足立 恵理 さん

外国ルーツの生徒支援のための資源（人材、資金、情報等）が乏しい地域の生徒は、適切な支援が受けられなくても仕方がないのか。そんな地域間格差を解消していくためには、生徒の背景理解や支援体制整備の努力はもちろん、「子どもの権利条約」に立ち戻って考えることが必要でした。生徒が日本のどこに住もうが継続的、安定的に支援を受けられる体制確保に必要なこと——理念、目標、内容、方法を、大分の模索や事例から考えます。

講座Ⅱ

子どもの貧困と子育て

長崎大学教育学部 小西 祐馬 さん

子どもの貧困について乳幼児期から捉え直し、子どもとその家庭が直面している貧困の現状を明らかにしたうえで、貧困の解決に向けて子どもにかかわるおとなをはじめ社会の果たすべき役割とその可能性について学びます。

講座Ⅲ

これからの部落問題

フリーライター 角岡 伸彦 さん

情報化社会の到来により、被差別部落に関する大量の情報が、インターネットを通してあふれかえっています。何が正しくて、何が間違っているのか。今ほど情報の質が問われている時代はありません。情報化社会の中の人権問題を考えます。

8/21火

分科会

掲載順は、報告順ではありません。内容については、今後の状況により、変更することもあります。会場およびアクセスについては、次頁、当日の「大会資料」等にてご確認ください。

第1分科会

テーマ 乳幼児期にかかわって

会場 別府市公会堂 講座室

話したいときに きいてくれる場がある

【鹿児島】霧島市立国分南小学校 成田 正子さん

「ひとりで悩まないでほしい。私たちも保護者となつなりたい。保護者どうしもつなぎたい」と始まった「つなご会」。「地元の学校に通いたい」と願う子どもや保護者に寄り添い、それぞれの思いを通信でまわりに発信した取り組み。

「もっとあそびたい」が聴きたくて

【福岡】筑紫野市立京町保育所 山本 貴子さん・佐野 佳奈絵さん

子どもたちの主体的な学びを創造しようと、「子どもの自尊と自律を育てる保育環境」について保育所全体で学び、「サークルタイム」やコーナーの作り替えなどの環境づくりに取り組む。子どもの主体的な活動や関係づくりなど、一人ひとりを大切にした保育実践の報告。

研究協力者 奈良県人教保育研究会 大寺 和男さん

第3分科会

テーマ 学校の教育力の充実Ⅱ

会場 ビーコンプラザ レセプションホール

「全員で走ろうと言ってくれたことがうれしかった」

【長崎】大村市立大村中学校 大塚 真一さん

障害のある自分を受け入れられないでいた健太さん（仮名）に、「この子の顔を上げさせたい。」と車いすバスケットボールチームとの出会いをつくった報告者。12月の人権集会では、チームの一員として全校の前に立ち、自分を語る健太さん。体育大会に向けて、「全員で走ろう」と寄り添うなかまづくりとともに、一人の子を支えるとはどういうことなのかを考えた実践の報告。

被差別の子どもを中心にすえたなかまづくりをどう進めるか

～1年間の人権学習の取り組みを通して～

【大分】豊後大野市立緒方小学校 戸次 博行さん

転校し再び帰ってきたA。しかし、Aに対する周りの反応はマイナスイメージであった。そこで、人権学習を行いながら差別・偏見をなくすとともに、誰もが過ごしやすい学級集団づくりを心がけた実践の報告。

第5分科会

テーマ こども支援・親支援Ⅱ

会場 ビーコンプラザ 国際会議室

「国際交流ママの会」からの親支援

【大分】一般社団法人 秋葉くすのき保育園 川崎 礼子さん

日本以外にルーツを持つ子どもたち、日本で子育てをし、仕事をし、生活している親たちと関わる中で、伝えることをあきらめていた親たちの心の声を聞き、その思いと向き合った取り組みの報告。

「うちの家ってDVなんですか？」

【宮崎】宮崎県立宮崎商業高等学校 竹元 素子さん

生徒Aさんは副担任に自分の迷いを話しました。「友人宅の夕食に招かれたときに激しい違和感を覚え、自分はDVを受けているのではと疑うようになった」と。DVを受けた家族を支えるために私たちができることは何かを考えていきたいと思います。

第2分科会

テーマ 学校の教育力の充実Ⅰ

会場 ビーコンプラザ 中会議室

「今後、ぼくみたいな思いをする人をみたくありません」

【鹿児島】奄美市立笠利中学校 山田 明美さん

学校生活の中でともに生活するなかまは、自然な形でさとしさんの支援をする。さとしさんの「高校へ進学したい」という願いを受けとめた報告者が、まずは高校受験に向け高校とつながりながら「合理的配慮」を模索していく報告。

人権課題を自分のこととして捉えさせる人権教育カリキュラムの実践～三側面を意識した学習活動を通して～

【佐賀】伊万里市立黒川小学校 山崎 伸二さん

キーワードは「三側面」「地域の環境を踏まえる」「9年間を見通した系統性」。これまでの人権教育に欠けていた側面を補い、“当事者意識をもち、子どもたちを真につなげるためのカリキュラム”の策定。

第4分科会

テーマ こども支援・親支援Ⅰ

会場 ビーコンプラザ リハーサル室

定時制課程で学ぶ高校生の実情について

～ある生徒の高校生活と成長を通して～

【佐賀】佐賀県立佐賀商業高等学校定時制課程 城島 貞実さん

佐賀商業高校定時制課程の学校生活を紹介し、そこで学び卒業した一人の生徒の入学前から現在までの生活とところの変化を追うことにより、困難な状況にある子どもたちを我々おとながどのように支援すべきかを考える。

「あいとさん“100%”だけん、スーパー元気!!」

【熊本】益城町立広安西小学校 川口 久雄さん

バギーで生活するあいとさん。お母さんが「あいとが一番安全で安心できる学校を選びました。」と言う学校づくり、学級集団づくりの実践報告。

第6分科会

テーマ 人権のまちづくり

会場 別府市公会堂 大ホール

学ぶことは生きること ～宝物を一人でも多くの人に～

【鹿児島】劇団てのっせ 河野 隆啓さん・亀甲 裕豊さん

多くのであいの中でもらったものを伝えたい、と結成された「劇団てのっせ」。識字学級をテーマにした劇「夕焼け空の向こう」に取り組む。部落差別により奪われた文字を獲得していくおばあちゃんたちと識字にかかわる人びとを演じることで、自分自身を見つめていく報告。

この部落に嫁いで……（あれから50年）

【熊本】部落解放同盟熊本県連合会白水支部 宮田 トミエ さん

75歳の報告者が、被差別部落に「嫁ぎ」、多くの人との出会い、識字学級、同和教育・解放教育との出会いを通じて「あれから50年……このムラに嫁いでよかった。このムラは私の誇りです。」という半生を綴った報告。